



第34号



「まきば」の真価が問われている

日本基督教団 中部教区総会議長 田口博之

愛知老人コミュニティーセンター シルバーホーム「まきば」監事
(名古屋教会牧師)

今年5月の中教総会で、議長に選ばれた名古屋教会の田口です。「まきば」は、中部教区にある日本基督教団のセンターの一つですので、教区議長として「まきば」の運営を総括するつとめがあります。同時に、愛知老人コミュニティーセンターの監事として、「まきば」の財産及び業務執行状況を監査する責任が与えられています。監事に選任されたのは2008年でしたので、11年目に入っています。「まきば」開設が1997年ですので、歴史の半分を監事として関わってきたことになります。

監事となった2008年は、「まきば」が無借金経営に転換する年でもありました。それ以後も「まきば」の経営状況は順調に推移しましたので、「まきば」の“いい時代”しか見てこなかったことになります。折から某雑誌が掲載した「有料老人ホームランキング」で、「まきば」は“全国1位”という評価を受けました。しかもこの評価は、財政面だけで判断されたのではありません。入居率、介護福祉士資格取得率、離職率等、いくつかの項目で評価された結果でした。それは、「まきば」が、儲け主義に走るのでなく、いかに“人を大切にしているか”を証しするものとなりました。「まきば」には、入居の問い合わせが相次ぎました。「まきば」は、入りたくても入れないホームとして周知されるところとなりました。

神の祝福のうちに歩んできた「まきば」ですが、今年の教区総会では入居者募集のアピールがありました。たくさんの“待ち”があると思われていたので、驚かれた方も少なくなかったようです。現実に數十

《目次》

頁

〈巻頭言〉	1
〈わたしの愛唱讃美歌〉	2
〈ご家族の声〉	3
〈特集「まきば」の認知症予防〉	4~5
〈まきばトピックス〉	6~7
〈編集後記〉	8

名の予約申込者がいるのですが、「まだ大丈夫です」と返事される方が多く、空室が残ったからです。そのことも一因となって、昨年度の「まきば」は、若干の赤字決算となりました。私が監事となって初めてのことでした。赤字となった原因はその他にもありますが、運営委員会はこれを適格に扱いでいますので心配はありません。しかし、マイナス要因を解消し、プラスに向かうものを生み出すことは、なかなか大変なことです。これから「まきば」に求められているのは“決断し、実行する力”だと思っています。

その時に忘れてはならないことは、入居者と職員、“人を大切にする”という姿勢を守り通すこと、「まきば」を通して「神が何をなさろうとしているか」、御心に聴き続けるということです。「神と人とに仕える」こと抜きに、利益が出たとしても意味はありません。「まきば」の真価が問われています。

「まきば」開設の目的に「隠退された教師の住まいを確保する」ことがありました。その理念は今も持ち続けています。それが「隠退教師館」の建築として現わされるのか、それがいつになるのかも分かりません。間違いないことは、「祈り」なしに実現しないということです。中部教区宣教実施目標に「愛知老人コミュニティーセンター・シルバーホーム『まきば』の働きを覚えて祈る」という一文があります。教会の礼拝の祈りに加えていただければと願います。



わたしの愛唱讃美歌

その6

ご入居者様の愛唱讃美歌を紹介するシリーズの第6回目です。
好きな讃美歌にまつわる思い出を伺ってまいります。

豊田 江美 様
(南山教会)

讃美歌 (1954年版) 298番

やすかれ、わがこころよ、
主イエスは ともにいます。
いたみも 苦しみをも
おおしく 忍び耐えよ。
主イエスの ともにませば、
たええぬ 悩みはなし。



重野 了子 様
(日本福音ルーテル挙母教会)

讃美歌 (1954年版) 454番

1. うるわしき朝も
しづかなる夜も
たべもの着物も
くださる神さま。
2. わがままをすてて
ひとびとを愛し
この日のつとめを
なさしめたまえや。



私にはこの秋95歳になる兄がいます。その兄がわたしより2年先にメソジスト系の幼稚園に入園して、毎日こども讃美歌を歌うので私も入園前に覚えてしました。今も電話や手紙でこども讃美歌を懐かしんでおります。「プレイスヒム、プレイスヒム、オニゲタチウラレン」と英語の讃美歌まで意味も解らずに歌っておりましたが、後日「朝起きたら神を讃えなさい。」という意味であることが解りました。

小学校を出ると私は金城女子専門学校附属高等女学部に入學して名古屋教会の中学科に通うようになりました。学校でも教会でも沢山の讃美歌を覚えて好きな讃美歌もたくさん出来ました。いずれも旧讃美歌ですが、受洗して本当の平安を得たいと望むようになった時に歌った「いさおなきわれを」とか、AHIの創立者の川原啓美兄がその決意をされるきっかけになった集まりの後で一緒に繰り返し歌った「主にのみ十字架を」などで、愛唱歌を決めかねていましたが、ある方の誕生祝に5~6人でその方の愛唱歌を練習してテープに録音して贈ってからそれが自分自身の愛唱歌になりました。

それが54年版の298番です。原曲はシベリウス作曲の「フィンランディア」と聞いております。

いつも主が共にいてくださることを忘れずに、平安に残り少なくなったこの世の旅路を歩みたいと願っております。



もう75年も昔の話になりますが、私は長野県のルーテル飯田幼稚園の園児でした。フィンランドミッションの協力で建てられた幼稚園で、真っ白いエプロンの園服を着て広い園庭を駆け回る、元気で少し気の強い子どもでした。

園庭の一部が竹林になっていて、春になると土から顔を出す竹の子探しに夢中になっていました。砂場やブランコで遊んでいる時に空襲警報が鳴ると、先生にうながされて暗い防空壕に飛び込み飛行機の音に恐れる時代でした。

新しく入園して来た、細面でちょっと美少年だった男の子と喧嘩になったことがあります。父がルーテル飯田教会の牧師で幼稚園の園長をしていたこともあって、少し傲慢になっていたのだ、と思います。その時、いつも歌っていた“こどもさんびか”的歌詞、「わがままをすてて…。ひとびとを愛し…。」の言葉に気が付いて、幼ごろに「『わがままな心』を捨てなくてはいけない」と思いました。

80歳になった今も幼稚園時代の讃美歌が好きで、知らず知らずのうちに口ずさんでいます。今の“こどもさんびか”では「きよいあさあけて…」と変わっていますが、この「うるわしき朝も…」の歌詞には、人生の基本が単純明快に歌われていると思います。当たり前のようだと思っている日常が、よく考えると当たり前のことではなく、どれもこれも神様の限りない賜物であることに気づかされます。

これからも、ここ「まきば」で、この“こどもさんびか”にある歌詞に心を留めつつ、信仰生活を続けて行きたいと願っています。

ご家族の声を紹介します

父母と「まきば」の思い出

萩原 義昭 様

(萩原忠臣様・壽美様ご家族)

2010年8月28日。父忠臣99歳、母壽美89歳が「まきば」に入居することになりました。

「まきば」では4年余母がお世話になり、父も母を看取ると言って同時に入居し半年余お世話になりました。

そして父は2011年2月25日に満100歳で召天、母は2015年4月22日に満94歳で召天、両人とも「まきば」のスタッフ、入居者の皆さま、家族による納棺式、斎場での前夜式、告別式も親交のあった方、「まきば」の皆さまに送られ二人とも幸せな生涯だったと思います。心から感謝しています。

私たち家族は名古屋教会の会員であり、「まきば」の建設を計画していた戸田牧師の思いを受け父母が1993年頃から、県との施設認可交渉のため戸田牧師と共に福祉課の知人のところに度々足を運んでいたことを覚えています。そして、その時代の教区の皆さまの様々な協力もあってこそ実現できたのではと思っています。

また母の記録によれば1994年4月から7年間シルバーホーム「まきば」の理事を務めさせてもらっていました。さらに、私の長女も「まきば」開設後2年余務めさせていただきました。自宅が守山だったため、朝早番の時は新守山駅5時25分のJRに乗り鶴舞経由黒笹降車、「まきば」まで通勤した時期がありました。



▲ご家族と一緒に食事を楽しまれました。

守山の自宅から「まきば」まで車で度々送ったこともあります。

当時の父母はまだ元気で二人で生活したい意思

もあり、二人を自宅に残し早朝通勤が大変だった娘の為、1999年年末から鶴舞線松中にマンションを借り、家族4人で引っ越し、娘をサポートしたことを思い出します。このように私たち家族はいつも「まきば」との関わり合いの中にあったと思っています。

入居してからも父(満99歳)は週二日から三日は会社に出社し、10月15日の日本電気講演の準備、11月から12月にかけての安立社友会、横浜国立大学同窓会出席の準備などを過ごしていました。その様な中、すばらしい出来事がありました。神の御心か、父が信仰告白を決意したのです。

戸田隠退牧師に相談、2010年12月6日愛知国際病院にて、母同席のもと、名古屋教会早乙女牧師司式により信仰告白をしました。これも「まきば」のスタッフ、入居者の皆さまの導きのおかげと家族一同喜びました。その後、12月15日に家族で満百歳を祝い、家族と共に自宅で新年を迎えるました。

2011年1月26日「まきば」の買い物ツアーで、絨毯を購入、自分で私室に敷き2月5日躓き転倒、加湿器に背中をぶつけ肋骨を四本骨折し、翌日国際病院入院治療するも、2月25日に召されました。あっけない最期でした。その後、私は生かされているうちにもっと母と過ごす時間を作りたいと思い、週末、休みの食事時など頻繁に「まきば」を訪問しました。私自身「まきば」のスタッフ、入居者の皆さまとの交わりの中で、沢山の勉強もさせていただいたと思っています。そして4年後2015年4月22日、豊田厚生病院で召されました。父母を送り終の住処が『まきば』であったことは神の御心であったと思っています。地域に根ざしたすばらしい施設になっていくことを祈っています。



特別企画

「まきば」の認知症予防

コグニサイズ and 健康体操

シルバーホーム「まきば」では認知症予防として「コグニサイズ」※を「まきば」行事、そして、介護保険契約者様向けのアクティビティとして取り組んでいます。

※「コグニサイズ」とは

国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題(計算、しりとりなど)を組み合わせた、認知症予防を目的とした取り組みの総称を表した造語です。英語のcognition(認知)とexercise(運動)を組み合わせてcognicise(コグニサイズ)と言います。Cognitionは脳に認知的な負荷がかかるような各種の認知課題が該当し、Exerciseは各種の運動課題が該当します。運動の種類によってコグニステップ、コグニダンス、コグニウォーキング、コグニバイクなど、多様な類似語があります。コグニサイズは、これらを含んだ総称としています。(出典:国立研究開発法人 国立長寿医療研究センターより)



「まきば」の機能訓練指導員も、いち早く認知症予防体操の必要性に気づき、国立長寿医療研究センターが行なった、「コグニサイズ実践者研修」を受講し、研修を修了してきました。

今では、「まきば」の行事の中で「コグニサイズ」は、礼拝や聖書の集いに次ぐ参加者の多い行事となっています。多少できなくても、体を動かし、頭で考えるだけでも、脳が活性化しますし、たくさんの方々と大声で笑い、カウントを取りながら取り組まれている姿は、とても楽しそうです。

これからも「まきば」では、いつまでもお元気で、また、認知症の発症を遅らせ、なるべく介護を受ける時間を短くするために、介護予防への取り組みをしてまいります。

リズムに合わせて
行きますよ~



ボールを使い、リズムに合わせて指導員が言う方向へ回したり、決まった言葉や数字の時にも逆方向へと、頭の中は大パニック!これがまた楽しいんです。



健康体操

「健康体操」では、呼吸法やツボを用いて、皆様の体調変化に対応した体操を行っています。



最近では、入居者様の悩み相談も受け付けています。この回は、低気圧(気候変動)に負けないと題して、耳鳴りやめまい、気分転換、口が渴く、慢性疲労を軽減するためのツボ等の話を熱心に聞いておられました。

まきばトピックス

このページでは、日本基督教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバー・ホーム「まきば」でおこなわれた行事や近隣での出来事を紹介するコーナーです。

春の行楽に行ってきました

4月18日（木）に「春の行楽」として名古屋港にあるワイルドフラワーガーデン『ブルーボネット』へ出かけてきました。

前日は雨が降っており心配しましたが、当日は晴天に恵まれ、きれいな草花を眺めながら散策しました。

その後は美味しいランチを食べ、帰りは刈谷ハイウェイオアシスに立ち寄り、ショッピングとスイーツを楽しみました。



受難日礼拝の時をもちました

4月19日（金）は受難日でしたので、愛知老人コミュニティーセンター宗教主事による受難日礼拝を守りました。

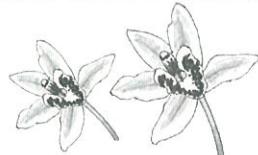
礼拝の中では「Makiba English Choir」の方々による「Were you there」の賛美も獻げられました。



召天者記念礼拝が行われました

4月27日（土）、「まきば」の召天者記念礼拝を行いました。

大型連休の初日でしたが、70名を超えるご家族・関係者の方々が故人の在りし日を偲び、共に礼拝と交わりの時をもちました。



名古屋中村教会の皆様が「花の日礼拝」を行ってくださいました

6月9日（日）はペンテコステ（聖靈降臨日）でしたが、6月第二聖日は、名古屋中村教会の皆様が毎年、「まきば」で「花の日礼拝」として行ってくださっています。

今年も、名古屋中村教会の皆様と、「まきば」のご入居者様と共に礼拝の時をもつことができました。礼拝後はいつものように、プランターに花を寄せ植えしてくださり、「まきば」だけではなく近隣の施設へと届けてくださいました。



農村伝道神学校の同窓会が見学されました

7月1日(月)～3日(水)にかけて行われた農村伝道神学校の同窓会2日目プログラムに「まきば」の見学が組み込まれ、20名の牧師先生方が来館されました。

前日には同神学校同窓生である「まきば」の小田部宗教主事が「超高齢社会にあって～介護現場からの報告～」と題して、現在の社会問題と教会の課題などを様々なデータを用いて講演を行い、活発な意見交換がなされました。

元 農村伝道神学校後援会長をされていた隠退牧師の先生と記念撮影をすることもできました。



ボランティア感謝会が行われました

7月30日(火)に普段から様々なボランティアをして「まきば」を支えてくださっている方々をお招きし、ボランティア感謝礼拝と交わりの時をもちました。

昨年より、礼拝後には「まきば」有志の方々による感謝の賛美が捧げられたり、皆様が行ってくださっている様子をスライドショーで映したり、「お互いのボランティア活動の様子を観られてよかったです」など、ご好評の声をいただきました。



■愛知老人コミュニティーセンターへの献金報告

献金者芳名 (2018年4月1日～2019年3月31日)

教会福祉献金	匿名 3名様	金額 4,000,000円
セ ク ナ ー 維 持 献 金	永田あすか様、原田明子様、渡邊田鶴子様、渡辺郁雄様 桑原邦英様、和子様、赤羽一郎様、栗原佐代子様、名古屋中村教会様 浅井淑子様、中村凱次様、元子様、愛知西地区委員会様、和田正躬様 深谷佐和子様、山田雪子様、愛知東地区教師会様、今井よし乃様 南吉衛様、東岡山治様、柴田信子様、日本基督教団様、加藤久雄様 名古屋学院一麦会様、真木芳子様、仲田水尾子様、中京教会様 篠田潔様ご家族様、岡崎教会泉の会様、岡崎教会様、城崎幸子様 広路教会様、知立伝道所様、南山教会様、福井五郎様・久子様 他(匿名)2名様・「礼拝」での献金 6口・「聖書の集い」での献金 4口	金額 1,434,500円
	合 計	金額 5,434,500円

皆様のお支えに感謝します。

① 三菱UFJ銀行 日進支店
(宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
運営委員長 下村 徹嗣
普通口座 1162658

② 郵便振込
日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
振替番号 00870-4-29934

スタッフ募集

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、
人格を大切に守る介護を実践してみませんか?
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。



看護職員(夜間)

週1日程度から。

曜日に限定がある方は相談に応じます。

【資格】看護師、准看護師

【勤務】18:00～翌8:00
(休憩4時間あり)

【手当】精勤手当あり



●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当:施設長)

入居予約受付中

日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
silver home



シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、
緑豊かな自然に包まれて暮らす…
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

交通機関 名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒川駅から900m
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エビック南から200m

類型及び表示事項
施設の類型／介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態／利用権方式
介護保険／愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護
入居時の要件／60才以上で入居時自立及び要支援の方(要介護の方も、ご相談に応じます)
居室区分／個室及び二人部屋 介護にかかる職員体制／2:1以上

●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

見学や体験入居もできます(要予約)

キリスト教プログラム

- 「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。
- 主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会からバスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究祈祷会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」にも自由に出席することができます。



編集後記

20年ほど前、わたしは年10回発行するキリスト教雑誌『共助』の編集長を務めていました。聖日の諸集会後、名古屋から新幹線に乗って上京し、雑談など一切できず、だいたい4時間の編集会議が終わると、新宿南口を23時30分に出る夜行バスに飛び乗り、月曜日の朝6時に春日井に到着。それからその週の業務が始まりました。

一方、「まきば」通信の編集は楽しく、いろいろな企画もあつという間に片付いてしまいます。今回の編集会議の後、誰言うともなく「断捨離」の話になりました。委員の中には何人の牧師がいて、蔵書の処理に頭を悩ましているようで、かく言うわたしも、隠退したものの、マンションを二部屋借りている情けなさ。健康年齢もあと頃々5年。時間との戦いです。それを考えると、身辺整理を見事に果たし「まきば」に入居しておられる方々の決断の潔さには頭が下がります。皆様にいつか「断捨離」の極意をお聞きしたいと願っています。(大島記)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター

まきば通信 第34号 発行日 2019年10月10日
発行人 鈴木 卓也

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88
TEL.0561-74-5548 FAX.0561-74-5561
ホームページ <http://silverhome-makiba.jp>
E-mail info@silverhome-makiba.jp